

明けましておめでとうございます。よい正月を迎えることができましたか。今年は、大きなイベントが重なる年です。イベントとはいえないかもしれませんが、1月から12月までそろった平成は今年が最後です。平成31年4月30日には天皇陛下が譲位され、5月1日からは新しい元号に変わります。歴史の変わり目となる年です。世界に目を向ければ、今年2月に平昌オリンピックがあり、6月にはサッカーワールドカップがロシアで開催されます。

本校でも大きなイベントがあります。本校は今年、創立120周年となり10月20日（土）には記念式典を行います。また、11月には全国高等学校体育学科・コースの研究大会が本校で開催されます。体育科や体育コースをもつ全国の先生や教育関係者の方々が集まり協議をしたり、授業見学や授業研究をしたりします。

多数の人の注目が集まります。授業内容だけでなく、本校で学ぶ生徒の皆さんの取り組みや姿勢も注目されます。皆さんの身からにじみ出る真摯な姿勢を見てもらいたいと思っています。にじみ出る真摯な姿勢は、その場ではつくれません。日常的に意識し行動することで身につけるよう心がけほしいと思います。

さて、話は年末年始の話にもどります。この期間は、ふだん忙しい皆さんもテレビや新聞を読む機会は少しはあったことと思います。目にとまったことや立ち止まって考えたことはあったでしょうか。私がしばしば目にしたのは将棋界の天才たちです。12月28日には、「ひふみん」と呼ばれている加藤一二三さんが天声人語に取り上げられていました。1月1日には藤井聡太さんが大学の先生と対談している記事がありました。人工知能と将棋の関係や将棋の将来について語っていました。15歳の少年が話しているとは思えない内容や語り口に驚きました。1月5日には、羽生善治さんの国民栄誉賞受賞について報道がされていました。

この3人の中で、加藤さんは引退されたことあってかテレビへの出演は非常に多かったと思います。加藤さんは、「ひふみん伝説」と呼ばれる多くの個性的な行動でも知られています。その中のひとつに「ひふみんアイ」があります。「ひふみんアイ」とは、対局の休憩中に相手の側に立って盤面を眺め、相手の目線で状況を読むために行っている行動です。加藤さんはこうすることによって、いい手、いわゆる妙手を思いついたことがあったそうです。

相手の目線で眺めると物事が違って見える経験は、身近なところでできます。例えば、地図です。日本で作られた世界地図は太平洋が真ん中にあり、日本も真ん中よりにあります。一方、ヨーロッパで作られた地図はヨーロッパが中心で、日本はその地図の右端にあります。日本が極東の国と呼ばれる理由がよくわかります。加藤さんの記事が載っていた天声人語は、身近な人との関係や歴史や国際関係について、「自分にとっては正義でも、別の人からすれば理不尽な振る舞いかもしれない。忘れてはいけない視点であろう。」と締めくくっていました。

相手の目線や考え方に立って物事を考えてみることの大切さは、日常生活の中でも見当たります。例えば清掃があります。トイレ清掃であれば使う人の視点で行えば、もっと気持ちよくトイレが使えるようになるかもしれません。

ことばの使い方についても取り上げることができます。例えば、「すいません」と「ありがとう」の使い方です。相手にとってどちらが喜ばれることばであるか考えてください。相手に面倒をかけた迷惑をかけた場合なら「すいません」でよいでしょうが、厚意でもらったときは「ありがとう」が好ましいと思います。

学業の中では、反論する人の立場に立って考えることが求められます。皆さんが書く小論文では、自分の主張をするだけでなく、反論を想定し、その反論に答えられるよう論文を練っていくことが必要です。それによって、最初の自分の考えが深まりしっかりしたものになっていきます。

相手の立場で物事を見たり考えたりすることは、コミュニケーションの最も大事な部分であることに加え、自分の考えを深化させる行為でもあります。そして学校生活や社会生活の基本ともいえるものです。

さてセンター試験まで1週間を切りました。3年生にはこれから本番の人もいます。健康に留意して臨んでください。1、2年生は平成30年度第0学期が始まると思って、今年1年が充実するよう計画しこの学期を過ごしてもらいたいと思います。

平成30年1月9日

島根県立大社高等学校
校長 吉田 彰二